

島原半島ユネスコ世界ジオパークにおけるユニバーサルツーリズム研修と検討課題

鎮西学院大学
山口弘幸 開浩一

研究目的と研究方法

○研究目的

ユニバーサルツーリズムの更なる意識醸成とユニバーサルデザイン・ジオツアーにおける対応力向上を目的に、他のジオパークの先進事例に学びつつ、ジオガイドへの企画研修を実施し、アンケート調査の中からユニバーサルデザイン・ジオツアーの実現可能性の検証および課題等についての抽出を行う。それらを踏まえて島原半島地域の観光振興とユニバーサルツーリズムの推進に向けた検討を行うことを目的とする。

○研究方法

霧島ジオパーク・UDフォーラムへのユニバーサルデザインに関する事例調査及び研修企画調整を行う。その後ジオガイドへの研修を実施し、その後のアンケートによりユニバーサルデザイン・ジオツアーの実現可能性の検証および課題等に関する意識調査を実施する。

認定ジオガイドへの研修の実際①

(研修会スケジュール)

午前の部

- 10:00～10:50 山口氏による講話(開会の挨拶等も含めて)
- 10:50～11:00 休憩、「Microsoft Teams」の接続準備
- 11:00～11:03 西島氏の自己紹介(挨拶)
- 11:03～11:15 動画「高千穂川原編(約6分10秒)」の上映
- 11:15～11:30 動画「桜島編(約6分10秒)」を上映
- 11:30～11:50 動画を見た感想及び質疑応答を行い、最後に西島氏の挨拶
- 11:50～13:00 休憩・実地研修準備
(12:00～13:00で車イスを6台みずなし本陣に搬入、昼食を済ませる)

午後の部

- 13:00～13:40 がまだすドーム(1Fフロア → エレベーター → 2Fフロア)
- 13:40～14:00 移動
- 14:00～14:40 みずなし本陣ふかえ(駐車場 → 被災家屋群 → 売店等)
- 14:40～15:00 移動
- 15:00～15:30 砂防みらい館(2Fフロア → 1Fフロア → 校舎前)
- 15:30～16:00 アンケート配布・回収

先進事例の取り組みから学ぶ①

I 概要

名称	霧島ジオパーク・UDフォーラム
住所	鹿児島県霧島市
活動目的	ユニバーサルデザインを「いつでもどこでも誰でも楽しめる環境」と捉え、老人も子どもも、男性も女性も、健常者も障がい者も、その人なりにジオに触れて、ジオを感じて、ジオを楽しむことができるようなジオパークの環境づくりを推進する。
設立年	2015年
会員数	6名
主な活動内容	普及啓発 ジオパークのUD化に向けた研究及び普及活動 実地調査 環霧島地域のジオ資源の巡検 情報発信 ホームページや動画によるUD情報の情報発信



(霧島ジオパーク・ユニバーサルデザインフォーラムホームページより画像抜粋)

認定ジオガイドへの研修の実際②

2020年11月7日に島原半島地域のジオツアーのユニバーサルデザイン化の推進を目的に認定ジオガイドに対する講義及び実技研修を実施した。午前には講義ということで、「ユニバーサルツーリズムの観点からみたユニバーサルデザイン・ジオツアーへの期待と可能性」について、研究代表者が講義を行った。霧島ジオパークからオンライン講義として、「霧島ジオパークにおけるユニバーサルデザインの実践」について、霧島ジオパーク・ユニバーサルデザインフォーラムの代表の西島氏他3名の演者による講義が実施された。午前の部の認定ジオガイドの参加者は13名であった。



オンライン講義の実際

先進事例の取り組みから学ぶ②

活動の特徴

- ①「JINRIKI」といった福祉機器を有効に活用し、段差等の解消とガイドの負担軽減を図っている。
- ②動画による積極的な情報提供が、訪問意欲の喚起、車イスでは直接訪問しにくいコンテンツ紹介、悪天候時の現地の映像紹介などのユニバーサルな配慮に結び付いている。
- ③ニーズに応じた移動支援事業者によるサービスの提供

「JINRIKI」



これらはジオパークのユニバーサルデザイン化を推進する上で参考となる取り組みである。

認定ジオガイドへの研修の実際③

午後からは車イスの実技講習ということで、乗り手役と介助役のペアに分かれて、交互に交替しながら昨年度調査を実施した「がまだすドーム」、「みずなし本陣ふかえ」、「大野木場砂防みらい館」の3か所の巡検を行った。実際に障害当事者を講師として参加し、コースの中でのバリアの状況に実際に触れる中で、車イス利用者の目線から考える重要性について、認識を深める機会となった。認定ジオガイドの参加者は12名であった。



車イス実技講習

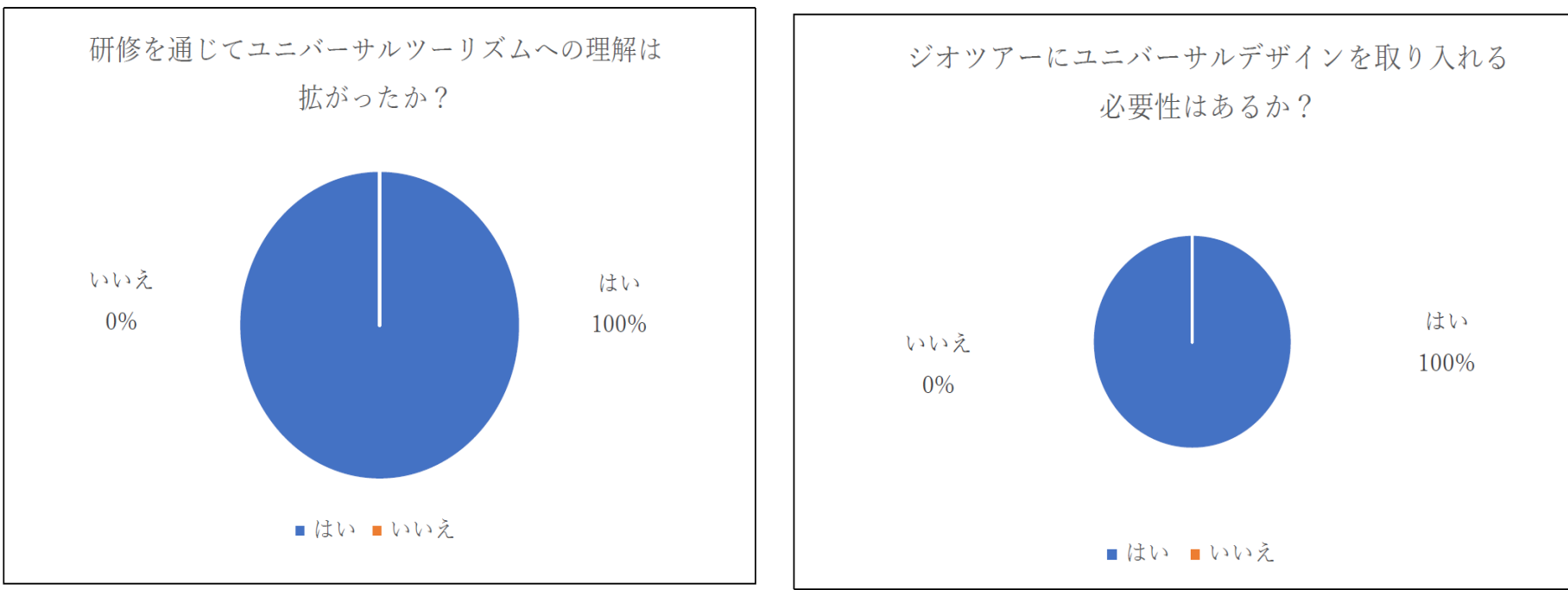


JINRIKIの活用



研修終了後の認定ジオガイドへのアンケート調査の結果①

午前及び午後の研修を修了した認定ジオガイド12名にアンケート調査を実施。12名中12名の回答で回収率は100%



研修の意義に関連する項目として、いずれも「はい」が100%であった。講義及び実技の研修形態において、認定ジオガイドによる認定ジオガイドへの講義、障害当事者の視点から学ぶこと、ユニバーサルデザインの視点から実際に課題等を発見するプロセスが高い回答につながったと推測される。

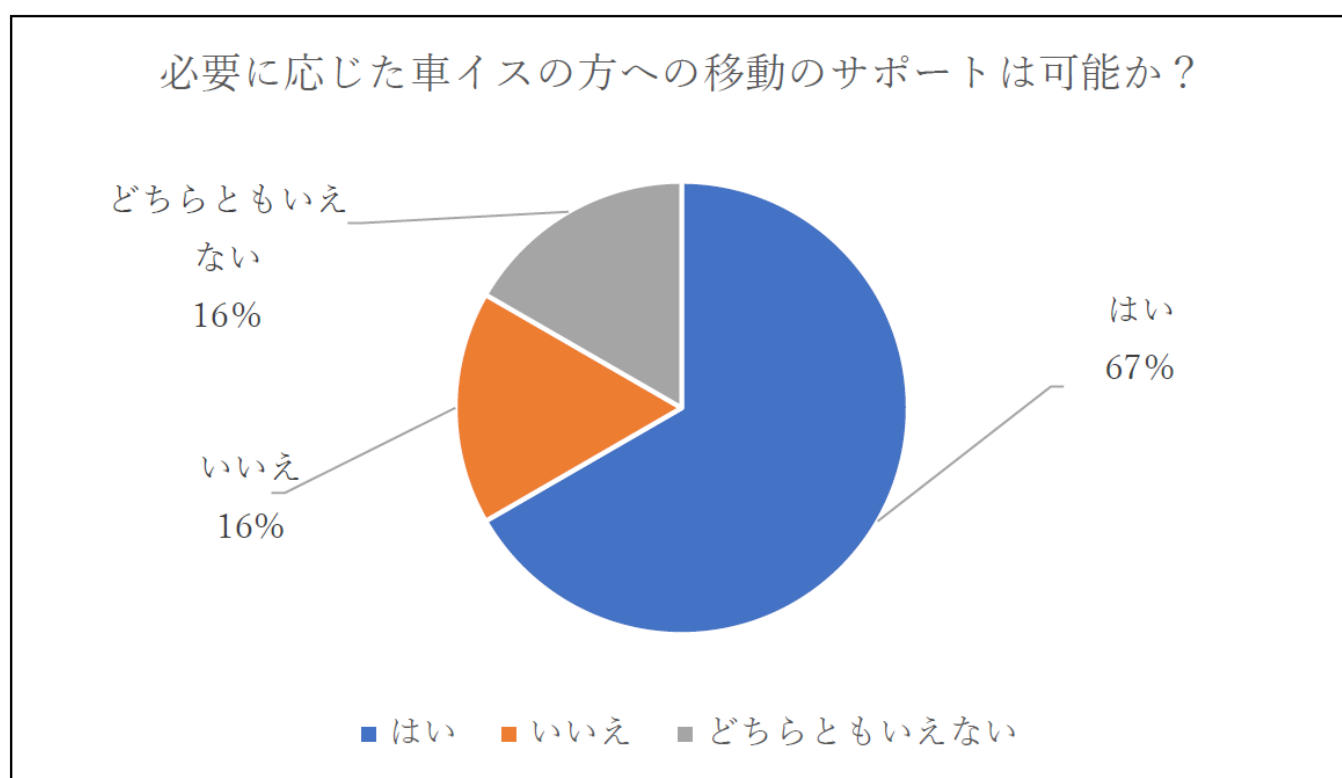
研修終了後の認定ジオガイドへのアンケート調査の結果③

ユニバーサルデザイン・ジオツアーの実施に向けて、不安に思うこと

カテゴリー名	意見
障がい者とのかかわり方と理解	<ul style="list-style-type: none"> ・車イス利用者とかかわる機会が少ないので取り組み方がわからない。 ・外部障害、内部障害、精神障害いずれにおいても些か不安があります。 ・心配りが大切です。相手の身になって。
周到的なコース設置の準備	<ul style="list-style-type: none"> ・時間をかけて、模擬のツアー等をして使い方を学ぶ。安全第一に考える。 ・実現するには話し合いを重ねなければと思う。 ・よく吟味したコースにお連れしないと危険があるかもしれない。 ・路面のどこぼこ、段差を事前に確認する必要があると感じた。
ガイドへの学習機会の確保とサポートの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての方々に楽しんでもらいたいと思いますが、ガイドと車いす介助を同時に行うには不安があります。 ・ちょっとしたお手伝いをするのはかまいませんが、できることなら介助はご家族に頂ければと考えます。もし事故が起こった時はその責任はどう取ればよいのでしょうか。 ・とてもよい学びができました。 ・ガイドの体力必要。

障害者とのかかわり方と理解、周到的なコース設置に向けた準備、ガイドへの学習機会の確保とサポートの充実が課題。

研修終了後の認定ジオガイドへのアンケート調査の結果②



必要に応じた車イスの方への移動のサポートは可能かの回答について、「はい」が67%、「いいえ」が16%、「どちらともいえない」が16%であった。「いいえ」の理由として、「ガイドが案内に専念できない」、「その前の体制の整備が重要（保険）、ガイド研修必要（くりかえし練習）」が挙げられている。「どちらともいえない」の理由については、「人数によりけり」、「サポートできるように勉強したい」が寄せられた。

体制の整備、実施体制のあり方、継続した研修が重要

ユニバーサルツーリズム研修を通して見えた検討課題

- ①ガイドはガイドの役割があり、おもてなしの中でできることを提供するという基本視点に立つことが重要。障害者とのかかわり方と理解、周到的なコース設置に向けた準備、ガイドへの学習機会の確保やサポートの充実について検討が必要である。
- ②医療や介護の関係者の経歴がある方も存在しており、移動支援等の対応力のある認定ガイドの方には、事故時の保険や報酬設定を含めたガイドの体系化について検討する余地がある。
- ③ガイドでは対応が難しいケースでは、福祉タクシー等を活用できるよう連携体制を構築することが重要。

これらの課題をジオパーク内の課題に留めてはならない。島原半島地域の観光を支えるという視点に立てば、行政、観光事業者、福祉関係者との連携や支援の中で考えていくことが重要である。



本研究は、令和2年度島原半島ユネスコ世界ジオパーク学術研究奨励事業補助金を受けて実施されたものです。